

H29年度 仙台市市民協働事業報告
～「孤食」や生活困窮家庭の子どもを中心とした多世代夕食支援～

地域の居場所「おりぎの食卓」

NPO法人おりぎの家
代表 佐藤 宏美

【報告の流れ】

- NPO法人「おりざの家」の活動内容
- 「おりざの食卓」の取組み
- 活動の様子
- サポートガイドブック「地域食堂のつくり方
～おりざの食卓の場合～」作成
- 今後の課題と展開

～NPO法人おりざの家～活動目的

太白区長町地区を拠点に平成8年より料理教室開催
平成25年5月に法人化

- 「食育」を通じた健全な体と心の育成
- 「食」を通し「命の尊さ」を伝える
- 基本的な生活習慣（掃除・洗濯・炊事）を
身に付け「生きる力」を育成
- よりよい家族のコミュニケーションづくりに寄与



～NPO法人おりざの家～事業内容

1. 食育推進事業

- ・玄米健康料理教室・行事食の普及・親子料理教室

2. 家族支援事業

- ・カウンセリング・タッピングタッチ基礎講座
- ・地域での子育て支援活動

3. おりざの食卓事業

- ・「孤食」や生活困窮家庭の子どもを中心とした多世代夕食支援

「おりの食卓」ってどんなところ？

生活困窮家庭や一人親家庭、共働き家庭の
子どもとその保護者、
また、地域とのつながりが希薄な
一人暮らしの高齢者
及び中間層世代の方々と



「共に食卓を囲み、夕食を食べる」

という食を通した

「地域の居場所」

おりぎの食卓の目的

- 1) **子どもが人間性豊かな自立した大人として成長する**
- 2) **世代による違いを認識し、多世代と連帯する**
- 3) **顔の見える関係の構築により相互扶助機能が強化される**
- 4) **地域全体の福祉力が向上する**

～おりざの食卓 概要

- ◎場所 NPO法人 おりざの家
(太白区長町)
- ◎実施日 毎週木・金曜日
16:00～19:30
- ◎定員 20名
※原則、事前の申し込みが必要
- ◎費用 無料
- ◎内容 週二回(木、金曜日)無料で夕食の提供を行う。

おりざの食卓～一日の過ごし方

14:00～ 調理ボランティア調理開始

16:00～ 子ども達、学生ボランティア
「おりざの食卓」へ
自由時間～宿題、遊び、多世代交流

17:30～ 配膳等のお手伝い、高齢者・保護者など
随時到着

18:00～ 夕食タイム

18:40～ お話しタイム

19:10～ 皆で後片付け、帰宅
※小学生は保護者のお迎えなどで帰宅



平成29年利用状況(H29.4月～H30.3月)

開催日数

96日

利用回数

子ども 662回

保護者 176回

高齢者 265回※利用開始2017年6月～

利用者数／内訳

登録者数

32名 (2018. 7月現在)

【内訳】

幼児 3名

小学生 17名

中学生 2名

高齢者 5名

保護者 5名



「おりざの食卓」を利用している方達

【子ども】

- ・シングルマザーのお子さん
- ・難病を抱えた保護者のお子さん
- ・単身赴任で一人で子育てをしている保護者のお子さん
- ・障害を抱えたお子さん など

【高齢者】

- ・他地域から引っ越してきて、地域の繋がりが薄い方

実際の活動の様子

【宿題・遊び】

宿題や遊びの時間は
学生ボランティアさんと
一緒に。



【お手伝い】

トマトの水やりや食器
の片付け、テーブル拭
きなど、各自の成長に
合わせてできることを。



実際の活動の様子

【食事】

自己紹介やその日の話題を話しながら食卓を囲む。

水やりをお手伝いしたトマトも食卓に



【食育】

干し柿や味噌づくり、季節の行事食を食しながら学ぶ



実際の活動の様子～流しそうめんの夕べ～

実施日～ 2017年 8月 3日 15:00～19:45

内 容 ～ 第一部 紙芝居、スイカ割り、
第二部 流しそうめん、花火

出席者～ 74名

主なご来場者

太白区区長・太白区社会福祉協議会 所長・東北福祉大学
教授/講師・長町小学校 校長・長町1丁目商店街振興組合
副理事長・長町西町第2町内会 会長・長町1丁目親和会 町
内会 会長・長町北部民生委員児童委員協議会 会長・長町
北部民生委員児童委員協議会 副会長・長町南部民生委員
児童委員協議会 会長・八本松民生委員児童委員協議会 会
長・八本松民生委員児童委員協議会 副会長・太白区家庭
健康課 課長/係長/保健師



実際の活動の様子～ぬいっこの会～

昨年9月誕生、
「おりざの食卓」以外のもう一つの「居場所」へ

実施日～ 毎週木曜日
13:00～17:00

内 容～ 寄付者へのお礼品、
バザー商品などを作成

出席者～ ボランティア・高齢者



利用者の声

子ども

木曜日は自分にとって、
天国だ！（中学生）

お姉さんたちと
遊ぶの楽しみ！
ご飯も美味しいよ！！
（小学生）

豆まきや流しそうめん
が楽しみ♪（小学生）

「ご飯のおうち」に
行くよ！（幼児）

ずっと「おりざの食卓」
を続けてね（小学生）



お礼の食卓をこれからもつけてね

いつもおいしいごはんを作ってくれてありが
とうございます。いつもおいしいごはんを
たのしみにしていきます。ごはんをつくる
ときどんなふうをしているのかなと思ってい
ます。わたしはおいしいごはんをたべれた
り、たくさんあそんでくれると本当に
いるお礼の食卓が大好きです。
これからもつけてくださるようお願い
させていただきます。いつもありがとうございます。
またお礼の食卓も楽しみにしています。
お礼の食卓をどうしてつくったんですか？わたしは
つくって楽しんでます。さあ先生
はとやわさしくみんなのことをささえてくれる
で、わたしはさあ先生みたくみんなを
大切にしてくれるひとになりたいです。

利用者の声

保護者



ここだと野菜も残さないし、宿題もしてくれてびっくり

引っ込み思案だった子が自己紹介できるようになった

行事食の日は習ってきたことを教えてくれるようになった。家庭ですべての行事はできないので、子どもの中で行事と食事の話がしっかりつながっていているように感じる。

子どもが来られない日でも皆さんとお話ししにきてもいいですか。

普段は二人きりなので、子どもに本当の家庭の味を味わわせているようで嬉しいです。



利用者の声

高齢者

人と一緒にご飯を食べるのは10年振り、
手作りのご飯を食べるのは何十年ぶりかなあ

子どもに声をかけて
もらって嬉しかった

毎週木曜日に来るのが
待ち遠しい。
食べ終わると次まで寂しい

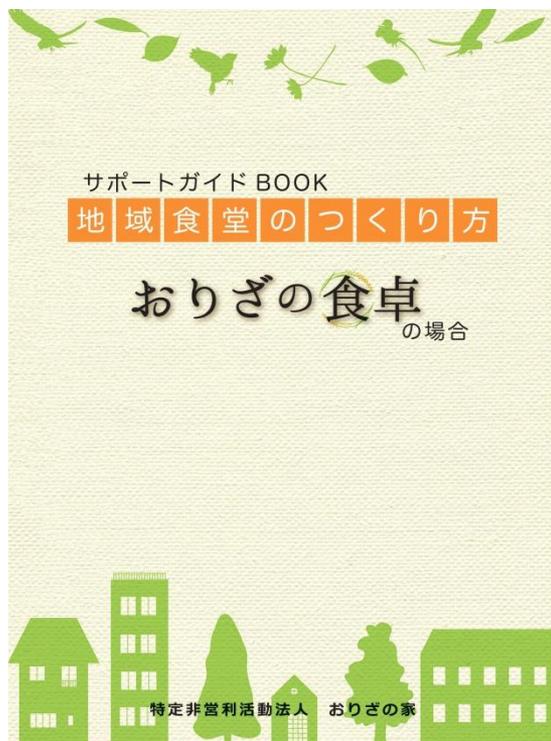
「ぬいっこの会」が
今の私の生きがい！

月1回くらいは、
調理ボランティアとして
参加したい



サポートガイドブック

「地域食堂のつくり方～おりざの食卓の場合～」作成



他地域への普及・啓発活動の一つとして作成。

取り組みを通して把握した課題

〈全体〉

- ・ 子ども、高齢者だけでなく、**あらゆる世代が居場所・人とのつながりを求めている。**
- ・ 生活困窮家庭以外にも地域孤立など潜在している問題に気づき**地域とのつながり、受け入れてくれる機会の必要性。**

〈子ども〉

- ・ 生活困窮家庭、ひとり親世帯以外にも居場所を必要としている子どもの存在
- ・ 子どもの生活圏内に、学校と家庭以外に個人として認められる**「第三の居場所」づくり**の必要性
- ・ **支援が必要な世帯とどうつながるか**
- ・ 小学生の19：30のお迎えに対応できないため**利用できないご家庭の存在**

取り組みを通して把握した課題

〈保護者〉

- ・ 悩みを話す等安らぎの場所となっているが、より丁寧に**話を聞くなど**、孤立しがちな母親を受け止めることのできる**環境作りの必要性**

〈高齢者〉

- ・ **他地域からの転居等で**地域に溶け込めない
- ・ **病気や不安**などから**寂しさの解消場所**となっている

〈ボランティア〉

- ・ ボランティアさん**自身の居場所**として環境づくり
- ・ ボランティアさんの自発性を引き出し、より主体的な活動へと展開していく**コーディネート機能の必要性**
- ・ **社会へのステップアップのために参加している方へのケア**

今後の展開

1) 開催日数の増加

「地域の居場所」として定着するために、**継続的实施が必要**

→安定的な運営基盤の構築が必要


週5回開催目標

2) 「貧困の連鎖」根本的対策としての3つのプログラム

1 「自立した大人」になるためのプログラム

基本的な生活(掃除・洗濯・炊事)を身につけることは、自立した生活を送るための土台と考え、「生活塾」の開催

2 「いのちの教育」のプログラム

「食育」「生命の誕生」を通し命の尊さを伝え、自分を大切にするなど性の問題行動防止につながるプログラム

→4月より寄付者の協力を得て、野菜を育て始める

3 「居場所作り」の拡大プログラム

子どもが歩いて行ける範囲に「地域の居場所」が点在できるように、同様の活動が他地区・他地域へと波及していくための普及活動

→サポートブック作成、講習会を開催予定